

# 2015 韓国社会福祉学会春季学術大会報告

## 韓国社会福祉学会春季学術大会での自由研究発表報告

藤田益伸

岡山大学大学院社会文化科学研究科

大学院在籍中に国際発表を経験したいと考えていたところ、翻訳付きで発表できる本大会の情報を知って発表の申請をしました。発表に向けてフルペーパーを執筆するのに労力を要しましたが、参加者の学会発表に対する意識の高さを感じ、韓国語原稿を手にした時は喜びもひとしおでした。

私は岡山から春川まで一人で飛行機とバスを乗り継いで行きました。片言でも何とか意思疎通ができました。むしろ日本語が話せる方が多くて助かりました。街中の小高い所に翰林大学校が校舎を構え、敷地内に春川聖心病院があって人の往来も多く、地域に密着して開かれた大学だと感じました。大会は講演、口頭発表、シンポジウムのどの会場もほぼ満席で、途中で抜ける人もいませんでした。発表者や質問者はまず自身の意見を全て発表し、聞き終えた後に別の人が発表するという点が印象に残りました。日本の場合だと話し中に他の人がさえぎったり、最後まで話さず後は察してもらって発表の仕方をしたりするので、自分事として主張方法が勉強になりました。

発表内容は在宅介護場面における医療・介護の多職種連携を促進するため、利用者本位や連携相手への配慮や内省といった項目により構成される連携行動尺度の作成とその妥当性の検証についてです。発表当日に翻訳者と打ち合わせ、20分間の発表をしました。座長から1因子2項目の部分は項目を増やすとよいこと、尺度と実際の連携が生み出すアウトカム指標等との関連を幅広く調べるとよいとコメントを頂きました。フルペーパーを熟読して頂いた上で、自身の博士論文完成への大きな指針を示すご意見は非常にありがたかったです。

その他、韓国でも地域包括ケアを導入する計画があることを学びました。日本国内の実情を把握するだけにとどまらず、世界の動向を知った上で自らの研究を位置づけることの重要性を痛感しました。貴重な発表機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

## 韓国社会福祉学会春季学術大会での自由研究発表について(報告)

城戸裕子

愛知学院大学

今回の発表研究テーマは「障害者と高齢者の福祉サービス制度政策の在り方」である。発表申請に至るきっかけは、福祉サービス、特に介護保険サービスについての現状と課題について同じく、介護保険が施行されている韓国でもより身近な問題であるだろうことを含め、韓国研究者側からの視座を得たかったからである。初めての海外学会での発表でもあったが、どこかで「何とかなる」という変な安心感もあった。実際、「何とかなった」のである。

発表言語は、韓国語であったことから拙い自身の語学力では無理と判断し、発表採択後に翻訳と当日の通訳を依頼した。暫くして、担当者から直接メールが届き(日本語で対応)、自身が発表の中で特に強調したいこと等を含め、何回かやり取りを行い、当日を迎えた。私は

政策セッションの第3発表者であった。韓国社会福祉学会は発表者個々にコメントーターが存在し、発表後にコメントをいただくという形であった。事前に提出した原稿を入念に読まれているらしく、細かい点に至るまで、むしろ本人が気付かなかった点についても的確に且つ丁寧な具体的助言がいただけた。

今回の発表は、障害者支援者側から見た福祉サービスの現状と課題の報告であったことから、継続して高齢者支援者側の調査と統合した研究報告を期待しているというコメントが印象に残った。通訳者とは当日初めて会ったが、メールでのやり取りがあったおかげで、発表も翻訳も正確に対応してもらえた感があった。

無事に発表を終え、記念に写真を撮っていると学生らしき男子が「撮りましょうか。」と声をかけてくれた。撮影後、通訳者が彼の言葉を伝えてくれた。「僕はハンリム大学の大学院生です。先程、先生の発表を聞いていました。来年はこの続きを聞かせてください。」私の研究を待っている人が少なくとも韓国に一人はいる。

来年、私はこの研究の続きを抱えて少しは韓国語も上達して、再び韓国に向かいたいと考えている。